

平成9年10月(1997年) No. 382

目白押しの映像発表会 —より”質”が問われる時代に—

会長 合原 一夫

今まで映像の公開映写会といえはOMC、関西シネクラブ共催のものと銀の会が共に朝日生命ホールで開催してきたのが目ぼしいものであった。この両者も観客動員を考慮して前者が10月、後者が5月とお互いに住み分けてきたのであった。それが、大阪ビデオクラブが3月に発表会を開くようになり、加えて今年から日本アマチュア映像作家連盟の全国縦断映像発表会が年2回(今年は6月7日に開催、次回は1月17日予定・いずれも阿倍野市民学習センター)そして新しく組織された大阪アマチュア映像連盟と大阪市立中央図書館との共催による映像祭が催されるようになった。考えてみると年6回の公開映写会となり、平均して2ヶ月に1回ということになる。大相撲が”もう大相撲か”と忘れないうちにやってくるのと同じである。

こうなると動員力にもむろん影響してこよう。当然観にきただけの価値があった、いい作品を観た、と感激してくれるような映像発表会には多くの観客が集まるようになるだろうし、単なる例会レベルのものの発表会は観客動員が減っていくのではないかと、という気がする。即ち観客の目が肥えてくると、会場へ足を運ぶのに選別の時代を迎えるのではないかとこの予感がする。OMCの発表会は毎年会場を満席にしたいものである。

10月例会は第3土曜日!

10月例会は、会場の都合でいつもより1週間早く第3土曜日18日午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3F)にて開催、お間違えないように願います。今月は新会計年度になります。会費納入の方もどうぞよろしく(従来半期前納を原則としていましたが、事務の簡素化のため年会費1万円前納を原則とします。しかし半期分5,000円でも受け付けます)。またフェスティバルが近づいています。フェスティバル出品予定作品で未上映作品はお持ち下さい。その他一般作品もどうぞ。どうまとめたらよいかお悩みの方もとにかく持ってきて見せてください。お待ちしております。

9 月例会レポート

すっかり気候も秋めいてしのぎ易くなった例会は、開会前より先日発表になったソニーの民生用デジタルデッキの話題がしきりであった。誰もまだ実物を見ていないので伝聞ばかりで結局もう少し様子を見てから、というのが結論のよう。それにしても43万円とは、業務用とそう違わないのをどう評価するか、という点にありそう。他社も追随して出してくれたら、もっと安く、いいものが手に入りそうだが、さて。

今月から新しく那須典彦さんが入会された。那須さんは以前の会員さんで映像作りには定評のあるベテラン、フェスティバル予定作として、早速異色の作品を持参された。また久方ぶりに越本さんがお兄さんをゲストとして同行されて出席され、元気なところを見せられた。出席者は19名、作品は8本とまずまずの盛会となった。

今月の司会は関さん、書記合原さん、デッキ係りは岡本さんの担当でpm6時過ぎに開会。

■出席者：今井、江村、岡本、奥、岩井、上総、合原、越本、越本善次郎(ゲスト)、関、花岡、那須(新入会者)、松本、増池、森、安居、安居(良枝)、前田、渡辺の19氏。

■上映作品

1. よさこい 江村 一郎さん 6分0秒
先月の作品を再編集して若干短くした作品。それだけに内容が濃くなってよくなったと司会者の評。こういう作品は音を主体に1曲分位長回しして、画はあとからインサートして入れたらよい、という助言も出された。確かに音が途切れ途切れに変わるの少し気になる。しかしアップの多用で迫力のある画面作りはさすが江村さんの腕である。
2. あこがれ 今井 羨美さん 4分30秒
自治体で初めてという大阪市が造った帆船「あこがれ」を大阪湾で最近撮影された記録もの。作者自身のナレーションで解説されている。子供が手旗信号をしているところがあったが、こういうカットはもっと沢山撮ってほしいところだ。画面は綺麗に撮れているが、何か一つ物足りない気がする。ヤマ場や見せ場が無いのが要因か。タイトルから受ける印象と内容から受ける印象がちぐはぐなもの気になる。ここは正直に「帆船あこがれ号」と正直に付けた方が良いのかもしれない。
3. 山鹿灯籠まつり 関 剛さん 14分30秒
山鹿というところは熊本県の北部にある小さな温泉町である。ここに昔から紙で作った灯籠を娘さん達が頭の上に戴き、中に灯り(昔は実際にローソクの火だったが今は豆電球が入っている)をともして踊る、という風流な祭りである。夜しか踊りが無いのも灯りが重要な役割のせい。作者は今年の8月のお盆に山鹿へ行かれ撮影してこられた。灯籠を作っている過程がかなり丁寧に撮られているが、ここはインタビューかナレーションで説明の欲しいところだ。踊りの場面はアップを主体に美しく仕上がっている。

ただライトが強すぎるカットは無いほうがよいように思う。

やはり灯籠の灯りが主役であって欲しいからだ。音は現録音だけで処理されているので、踊りの動きと合っているのは当然だが、そのかわり周囲の雑音も入っているので、折角の幽玄の世界であって欲しい画面が、現実の記録もののように心を引き戻されてしまうのはいかにも残念。実際の音にかかわらず、全く別の曲で締めくくったら如何な印象になるであろうか、ふとそう思った。オーバーラップ、二重写しの多用にも異論が出されたが、OMCフェスティバルのトリを飾って欲しい作品だ。

4. ビデオ日記・8月1日(金)晴れ 安居 利次さん 6分45秒
ご夫婦が映像を中心に楽しんでおられる様子を日記風によく描かれている。こういう日常の何気ないこともビデオならではの作品になり得るとい見本みたいな作品。室内の会話の音がこもりがちで聞き取りにくいので、別のマイクを使った方がよいとの助言あり。
5. 犬と私 安居 良枝さん 7分10秒
作者にしてはいつもの短編に比べ7分は長い方の作品。それだけ内容が多くなっている。阪神大震災で孤犬となった犬を作者が引き取り育てるが、途中から息子さん夫婦に預けて可愛がっておられる経緯と犬との交流が描かれている。マンションに住んでおられた息子さん夫婦も犬を飼うために一戸建ての家を借りるとい熱の入れようだ。いい作品に仕上がっているがタイトルと内容とのイメージが少し違うような気がしてならない。
6. 北海へそ祭り 那須 典彦さん 9分35秒
ユーモアあふれる楽しい作品だ。北海道富良野はラベンダーで知られる町、スチールカメラマンが大勢おしかけるところでもある。ここで7月27-28日、北海へそ祭りが行われる。このユニークな祭りを撮影しようといわざわざ大阪から出掛けられた作者の熱意にまず敬意を表する。裸のお腹に絵を描く様子と夜のパレードが主だが理屈抜きに楽しい。パレードのお腹の絵のアップがもう少し欲しいところだ。また最初に駅で作者自身が出るが、出るのなら中間とラストにも出て関連づけた方がよいと思う。
7. 参考作品「大阪天神祭」 天六ビデオクラブ共同先品 15分53秒
今度の大阪市立図書館との共催になる「大阪アマチュア映像祭」のために、天六ビデオクラブの数名の会員が手分けして撮影、制作した共同作品。大きな祭を一人で制作しようとしても撮影が限定されることから、共同撮影の効果は大きい。腕章が1人分でも入手できれば尚更である。神事の情景などは一般の人ではとても撮影が難しいが、腕章の威力はさすがである。舟渡御も船上から、橋上から、陸上からと多彩なカットが得られるのもよい。デジタル化したことで、撮影されたテープはデジタルコピーして分け合えば、各人が自由に作品を作り得るのも共同作品のメリットであろう。ただ感じたことは、露出がそれぞれ違うと編集が難しいこと、特に夜の撮影でオートのまま撮影したテープはザラついていてとても使えず、月マークを出したり手動で調整されたものしか使えなかったことなど、私も参加してみて感じたことであった。また事前の打ち合わせをもっときめ細かくする必要も実体験したのであった。

(講評 合原・記)

平成9年度（1997）会計収支報告

このほど、合原会長、江村一郎氏立会で、平成9年度のOMC一般会計の収支報告を決算しましたのでご報告します。今期は後半新しい会員が若干名増えたためと、従来朝日生命ホールで開催していた公開映写会に会からの拠出金6万円が、今期はなくなりましたので、収支はかなり改善されました。また公開映写会関係の支出が来期送りになったこととビデオデッキ等機材の故障修理もなく、繰越金の積み増しが出来ました。（会計担当 森）

■浜松撮影会収支決算

収入の部	・ 2,000円×9名分	=	18,000円
支出の部	・ ロケハン諸経費、資料コピー代は会長負担		
	・ 録音テープ代		1,470円
	・ トロフィー出品賞ビデオテープ代		21,013円
	・ トロフィー注文、受取交通費、ロッカー代 等雑費		1,270円
	支出合計		23,753円
	差引		△5,753円

■OMC一般会計収支決算

◇前期繰越金	84,602円	
◇収入の部	・ 会費収入	247,000円
	・ 雑収入	34,661円
	収入合計	366,263円
◇支出の部	・ 会場費	66,020円
	・ 通信印刷費	62,620円
	・ 撮影会補助	5,753円
	・ 連盟会費	10,000円
	・ 諸雑費	3,409円
	支出合計	147,802円
◇次期繰越金	218,461円	

途中入会者を含む26名分
フェスティバル会計返還金

例会会場費、ロッカー借用費
封筒印刷費、ニュース発行
費、祝電費

トロフィー代補助金

年会費

クリーニングテープ、
撮影会飲料代

上記の通り相違ありません。

平成9年9月30日

会計 森 保信
立会人 合原 一夫
江村 一郎

■今期は大阪アマチュア映像出品補助金、OMCフェスティバル出品補助金等の出費はありません。来年度はこの出費が予想されますが、会員数が今年度の26名のように安定化されますと、会費の値下げを下期から出来ると思います。（合原 一夫）